

🐶十月七日土曜日、澄み渡った秋晴れのもと、立教小学校第七十六回運動会が実施されました。当初、熱中症を警戒していましたが、当日は、出始めのミカンの香りがピッタリのさわやかな天候に恵まれ、参観者の人数制限もせずに、全日プログラムで行われました。お昼ごろには、未就学児童（女子も多数参加）のかけっこも行われました。



二十三日まで行われていた入学試験保護者面談では、運動会に参加された受験児の保護者の方々から、本校の児童・教職員・保護者の和気藹々（わかあいあい）とした一体感が心地よかったと、お褒めの言葉を多数頂戴しました。その運動会の閉会式で、子どもたちにこんな話をいたしました。

開会式の時に、けがには十分注意するようにお話しましたが、大きなけがもなく無事に運動会を終えようとしているお恵みに感謝です。

三階の五年生の教室の前に、「立教小学校の校舎で行う最後の運動会に向けて、今の思いを漢字一文字に―一筆入魂」と書いてあり、五年生の作品が掲示されています。じっくりと拝見しました。最初、「勝」とか打倒の「打

とか、「破」というような文字が並んでいるのかと思っていました。実際一番多かった文字は協力の「協」。次は楽しむの「楽」。「絆（きずな）」という字も多かったようです。これを見て、君たちの気持ちが伝わってくるようで、なんだかとても幸せな気持ちになりました。

そんな中、一人だけ「応」という字を書いているお子さんがいました。彼は、けがのために競技に出られなくなってしまった方。なのでその文字にしたのか説明を読むと、「骨折して競技に出られなくなったけれど、残りのみんなががんばって勝ってほしいという期待に応えてほしいのと、その応援の応」と、ありました。応援の応を「こたえる」と読めるなんて、かなり賢い人のようです。その彼の応援が天に通じたのか、みんなが期待に立てくれたのか、C組が見事優勝。今そこに並んでいる、誰とは言わないけれど、C組の彼は、さぞかし喜んでいることでしょう。

あれやこれやで、ふと思いついたのが、四年前のラグビーワールドカップの事。今もフランスでラグビーワールドカップの試合が行われていますね。四年前は日本が会場でした。岩手県の釜石という所で予定されていたナミビア対カナダの試合は台風のために中止。そのため、カナダチームは試合をせずに一番ビリになることが決定してしまいました。さぞ

かし悔しかったことでしょう。

その時、カナダチームの人たちは何をしたらいいのか。台風でひどい目に遭った釜石に残り、泥掃除や水につかった畳などを運び出すボランティアをしてくださったのだそうです。力の強い人たちです。きつと軽々と運んでくれたのでしよう。釜石の人たちはどれほど勇気づけられたことでしょう。

話はこれで終わりません。カナダに帰国するために成田空港で待っていた選手の一人に、空港の日本人職員や日本人グループの人が近づいてきて、「釜石を助けてくれてありがとう！」と言ったのだそうです。それを聞いた選手は、成田―釜石は五百三十キロも離れているのに、お礼をされたことに驚きつつ、カナダ人であることを誇りに思ったのだとか。

そして、「試合には負けただけで、別の事で大事なことを成し遂げることができた。」と語ってくれたと新聞に出ていました。

この話を思い出しつつ、勝ち負けも大事だけれど、それ以上に大切なものがあると、今日の君たちの様子を見てはつきりと感じる事ができました。ワクワクする一日をありがとう！そして、六十年間、君たちの様子を見守ってくれたこの校舎の前で運動会をするのは、今回で最後となります。みんな、校舎に感謝の拍手をしませんか―拍手ありがとうございます。これで私の話を終わります。（立教小学校校長 田代 正行）